

学校だより 《ひきの》

北九州市立引野中学校

校長 早崎 淳二

第12号

「挨拶」「返事」「姿勢」

平成28年11月29日 発行

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

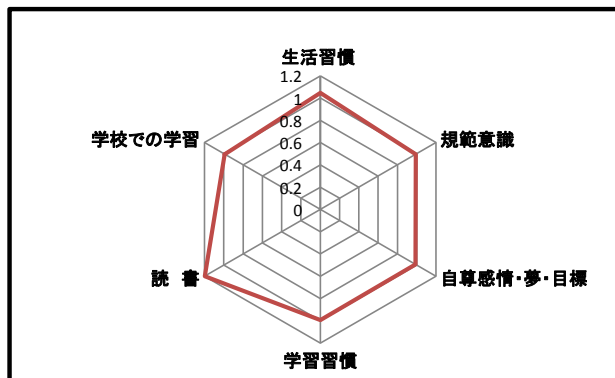
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。本調査により測定できるのも、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的に全国平均を上回っており、特に書く力は基礎がきちんとできている。漢字の書き取り問題にやや課題が見られる。	上回っている
国語B	全国平均を大きく上回っており、読む力、書く力ともに力がついている。読解力も十分にあるが、自分の考えを文章にすることにやや課題がある。	上回っている
数学A	全国平均を大きく上回っており、全体的に数や数式の計算の正答率が高い。近似値と誤差についての問題に無解答がやや多く課題が見られる。	上回っている
数学B	全国平均を大きく上回っており、特に図形の領域における問題の正答率が高い。数学的に説明する問題については正答率、無解答率がともに高く、二極化している。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



- ・ 学習習慣において、平日、土日ともに3時間以上取り組んでいる生徒が多いが、30分～1時間以内、全くしない生徒の割合も多い。また、宿題はするが、自分で計画して、自主的な予習・復習ができていない傾向にある。
- ・ 生活習慣の安定が規範意識、学力向上に比例している。
- ・ 読書の時間が全国に比べて大幅に長く、国語力の向上に大いに反映されている。朝読書の設定、学校図書館の開放による成果と考えられる。
- ・ 自尊感情がやや低く、将来の夢や目標がはっきりしている生徒の割合も全国と比較すると低い傾向にある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 漢字ドリルや漢字テスト、漢字コンクールなどを実施し、漢字学習の強化に取り組む。
- ・ 単元別プリントや自主学习ノート等の活用等により、個に応じた学習に取り組めるようにする。
- ・ 宿題の提出の徹底や小テストを計画的に実施し、全体的な基礎学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 家庭学習の時間(自主学习・宿題)を充実させ、一日におけるのメディアとの接触時間を減らす。(新聞、ニュースは推進)
- ・ 地域の行事に積極的に参加させ、地域の方とのコミュニケーションを深めさせる。